学科の特色と進路

特色1 少人数を活かした教育方法と個別指導

入学定員80人で学生それぞれが主体的に参加する授業を行うことができる
少人数の講義や、実験・実習のすべてにおいて、密度の高い教育を実施します。

双方向授業

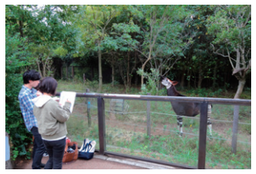
ディベートやロールプレイなどを取り入れることで、学生の積極的な発言を促します。単に教員の話を聞くのではなく、学生自身で授業を作っていく、双方向の授業を実現。これも徹底した少人数教育だからこそ可能と言えます。

アカデミックアドバイザー制度

履修内容も学生自身が決める大学教育では、どの科目を取るべきか、迷ってしまうこともあります。そこで、くらしの生物学科では、1年次から教員がアカデミックアドバイザーとして、授業の履修計画から将来のキャリア設計までを個別に指導。学生生活への親身なサポートを行います。

特色2 フィールドや地域社会での実践体験

学んだ知識を活用する実践力を身につけるため、地域社会と連携して、さまざまな活動を行います。



フィールドでの実習

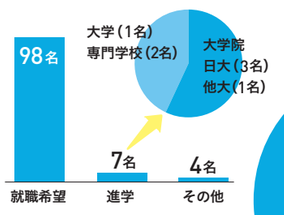
農場や生物環境科学研究センターなどの屋外の施設・設備を活用した体験型のフィールドサイエンス教育を通して、専門知識・技術の修得を目指します。

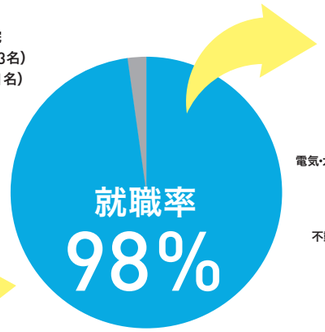
ボランティア活動

地域で行われているボランティア活動に参加し、さまざまな問題を経験するとともに、地域や人への貢献することの意義を理解します。

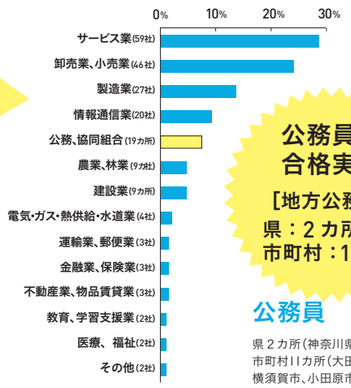
特色3 就職率の高さ 2019年3月卒業生

卒業生の進路別人数





内定先の業種別割合



公務員の合格実績
［地方公務員］
県：2カ所
市町村：11カ所

公務員

県2カ所（神奈川県、千葉県）
市町村11カ所（大田区、町田市、相模原市、横須賀市、小田原市など）

日本大学生物資源科学部 くらしの生物学科

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866
TEL.0466-84-3392
URL.http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/

Facebook　Website

日本大学生物資源科学部
College of Bioresource Sciences NIHON UNIVERSITY

くらしの生物学科

Department of Bioscience in Daily Life

くらしの中にあふれる科学。
それを使いこなすための知識を
私たちは持っているでしょうか？

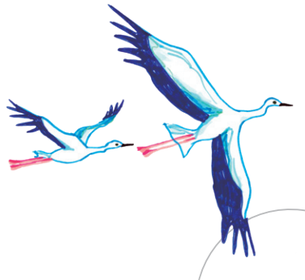
新しい視点で科学する、くらしの生物学科。

情報があふれる現代社会。専門家だけが知っていた高度な情報をすぐ手にできるようになりました。
しかし、行き交う情報には不正確なものもあふれ、多くの人が正しい答えを見つけられずにいます。
そこで、あふれる科学的な情報を正しく理解、判断し、行動できる人、
すなわち「賢い生活者」が求められています。

これまでは専門家だけがよくわかっていればよかった
科学の知識や技術が

これからは
市民生活の中でも、必要になってきた

5つの領域とその境界科目を学ぶ



●食と健康科学
●機能性農作物論

●伝統食品論
●発酵科学

食と健康

食物と人の健康との関わり

食品栄養科学／
食品保存・安全管理学／
公衆衛生学／食品科学実験

都市と園芸

都市の園芸や植物の利用について学ぶ

植物生理生態学／基礎栽培学／
植物組織細胞培養学／野菜果樹栽培学
都市農業論／社会園芸学／
フラワーデザイン論／
園芸学実験・実習

領域を結び合わせると、学びの可能性は無限大

くらしのバイオ

日常生活を支えるバイオテクノロジー

くらしのバイオテクノロジー／
生物有機化学／微生物学／
分子生物学／細胞生物学／
バイオサイエンス実験／

●家庭園芸論
●公園緑地利用学

●保全生物学
●環境修復生物学

住まいと環境

環境をテーマにした私たちのまちづくり

緑地環境学／くらしの環境デザイン論／
まちづくり学／里地里山学／
環境緑化実験・実習

動物のいるくらし

生活に身近な生き物の視点で考える

くらしの動物学／生き物飼育論／
応用魚類飼育学／動物科学／
愛玩動物飼料学／
動物飼育学実験・実習

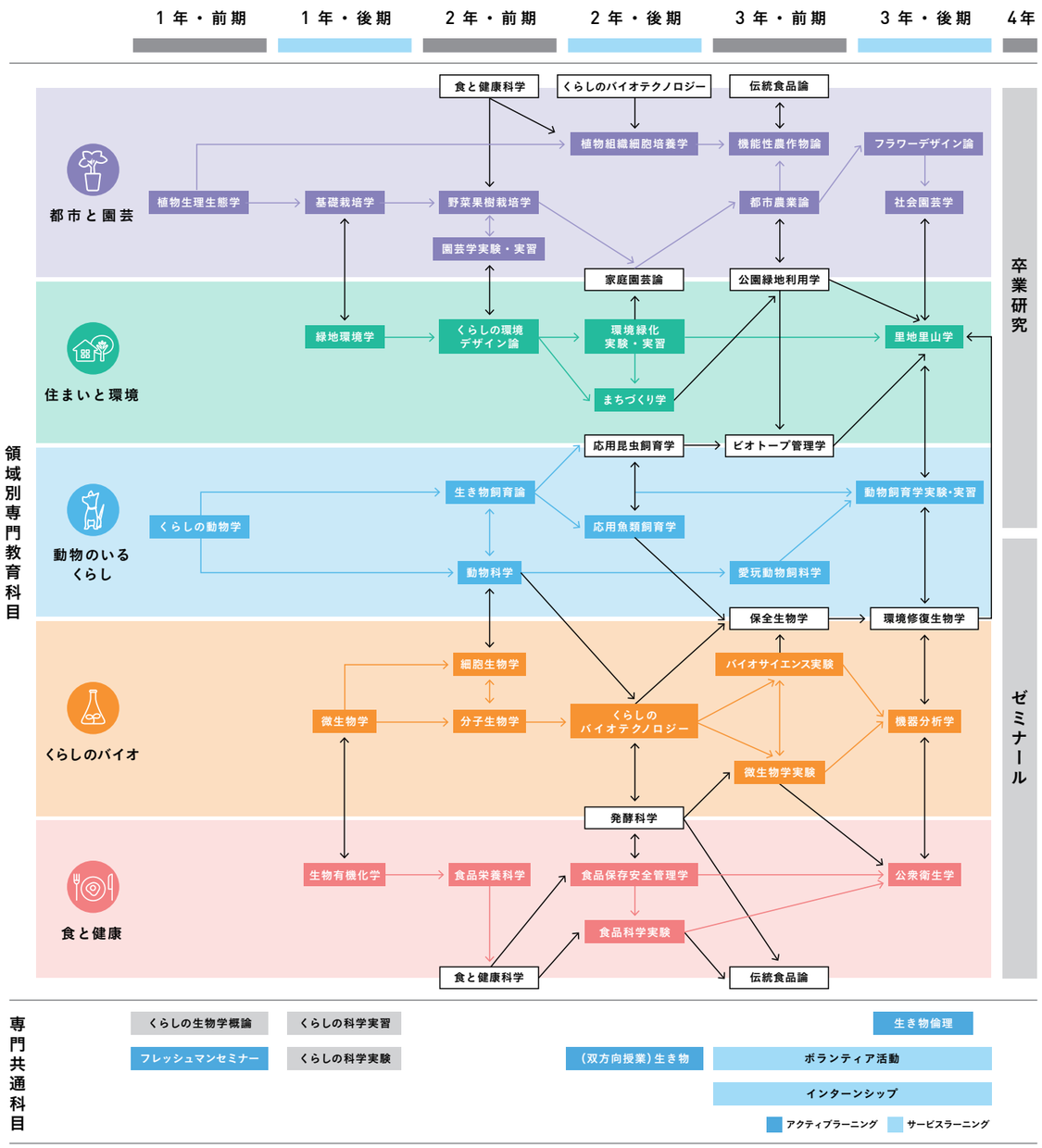
●ビオトープ管理学
●応用昆虫飼育学

共通科目	学び方・学ぶ方法	→ フレッシュマンセミナー／くらしの生物学概論
	体験を通した理解	→ くらしの科学実験／くらしの科学実習
	生物の視点を通した関係性の理解	→ 双方向授業　生き物
	リーダーシップの育成	→ ボランティア活動／インターンシップ
	社会的責任	→ 生き物倫理

国立科学博物館と大学パートナーシップを締結しています！

くらしの生物学科の学生は、学生証を提示すると常設展は無料、特別展は620円引きで入館できます。対象施設は以下の3施設です。
①**国立科学博物館**（上野公園）　②**附属自然教育園**（港区）　③**筑波実験植物園**（つくば市）

カリキュラム



研究室紹介

くらしのバイオ 研究室

くらしの中のさまざまな事象を バイオの視点で切り取ります

私たち人間のくらしとそれを取り巻く生き物や自然環境はどのように関係しているのだろう。その相互作用を明らかにするために、人、家畜、野生動物、昆虫の腸内細菌や糞便や体毛などの派生物を対象として、遺伝子解析や成分分析などのバイオテクノロジーを用いた科学的視点から研究を行っています。また、生物の分類や環境分析、食品の利用に応用できる遺伝子解析などの基礎技術の開発と研究も行っています。

くらしの微生物 研究室

実験室からフィールドまで、 2つのアプローチで微生物の謎に迫ります

微生物を対象にして２つのアプローチで研究を進めています。一つは「酵母のバイオテクノロジー」、酵母をモデルにして生命現象の基本的な原理を解明しようという研究で、具体的には細胞が環境に応答する仕組みを分子レベルで解析しています。もう一つは「細菌のフィールドサイエンス」、環境中から有用な機能を持つ細菌を見つけ出し、くらしに活用することを目指す研究です。環境修復やバイオマス利用に関する課題が進行中です。

食と健康 研究室

食の機能と安全の研究を通じて 健康的な食生活に貢献する

食品は以前、薬の効能効果との兼ね合いで、身体によくも悪くも影響しないものとされていました。しかし現在では栄養素や食品成分、食習慣などによる生活習慣病など、食品の身体への影響は周知の事実となり、良い影響に対して「食品の機能性」、悪い影響に対して「食の安全性」という言葉が使われます。「食と健康」研究室では食品の機能性と食の安全性について研究し、正しく伝えるにはどうしたら良いか皆さんと一緒に考えます。

動物のいるくらし 研究室

多様化する動物と人との関わりの中で、動物の 繁殖や行動に注目した研究を進めています

野生動物から改良された家畜は、人間により長い年月をかけて生産能力が高められ、私たちの生活に役立つ身近な動物です。また、愛玩を目的とした家庭動物、環境教育を目的とした動物園動物、そして自然環境に生息する野生動物も、私たちの生活と密接な関わりを持ちます。「動物のいるくらし」研究室では、様々な動物種を研究の対象にして、文化的な側面を含めて動物と人間との関わりをテーマに研究を進めていきます。

くらしの園芸 研究室

植物のパワーで 豊かなくらしを実現します

園芸作物の生産技術や農産物の機能性、市民生活における植物の利用について研究しています。ブルーベリー、キウイフルーツなどの果樹や、イチゴ、メロン、トマト、コマツナなどの野菜を栽培し、収穫期間を拡げるための生産技術や、植物体に含まれる色素やミネラルの組成を明らかにします。また、植物は生活に潤いをもたらす存在でもあり、その力を活かすために希少植物の保護や園芸の教育的効用についても研究しています。

住まいと環境 研究室

安全で快適な住環境の創出や生物資源を 活用した地域活性化等を研究しています

公園緑地の整備・運営や緑化の推進、生物多様性の保全や普及啓発、レクリエーション機能の整備等による安全で快適な住環境の創出、生物資源（人材、農林水産物、文化等）の活用・連携による地域の活性化や環境保全に関する戦略構築を主な研究テーマとしております。「住まいと環境」研究室では、こうした暮らしの改善・向上に資する広範かつ実践的な知識や手法等を、自然科学と社会科学の双方から学ぶことができます。

学生Q&A

Q 入学の決め手は？

A オープンキャンパスで在学生に学科紹介をしてもらいました。学生さんたちがとてもハツラツとしていて親切で、なにより自発的に行動しているように見え、他学科にはないものを感じました。

A 幅広い分野を学べるということは、色々な進路が見えるかなと思いました。

A 植物について学びたい！という思いがあったのですが、その他の分野も学ぶことで興味の幅が広がるのでは？と思いくらしの生物学科にしました。

Q 入学後の学科に対する印象と 入学して良かったと感じたことは？

A 想像以上に先生方が身近な存在で、履修や就職について悩んだ時に相談にのってくれました。入学する前に思っていた大学に対するイメージ通り、大学というのはどんな学生生活を過ごすかは自分次第だったけど、困ったときにサポートしてもらえる環境が、整っている学科だと思います。

A 様々な方向からものごとをみる力が身につきます！この力は社会に出てから役に立つと思うし、学びたい分野が決まっている人にもオススメしたい学科だと思います。

A 社会問題について考えて、解決に取り組む姿勢が身に付いていくのが入学して良かったと感じた点で、何よりも同じ学科の学生たちと楽しく学ぶことが出来るのが良いところです。

A くらしの生物学科はグループワークやプレゼンテーションなど、学生同士で協力・連携して進めていくカリキュラムが多く、そのすべてが就活で必要な能力なので、有利な就活ができたと思います。

よく聞かれる質問にお答えします

Q 学科が養成するスペシャルな ゼネラリストとはどのような人ですか？

A くらしの生物学科が養成するゼネラリストとは、科学に関する幅広い知識を持つ人材で、これまでの大学が育成してきた狭い分野に特化したスペシャリストと対比される人物像です。世の中にありふれた専門家ではなく、広い知識を持つ特別な存在を目指すことを、「ゼネラルなスペシャリストより、スペシャルなゼネラリストに」という言葉で表しています。

Q 幅広い分野について学ぶ結果、 浅い知識になってしまいませんか？

A 広く学ぶ過程で興味を持ったことについては自分自身でさらに深く学ぶことができます。一方、最初から特定の分野だけを学んでいる場合は、他の分野に眼を向けることがなかなかできません。知識は広げるほうが深めるより難しいものです。若い時こそ幅広い対象について学び、異なる分野にまたがる知識や考え方を身に付けてほしいと思います。